

岡山大学歯学部創設 25 周年記念誌



2005 年 3 月

目次

歯学部のおゆみ	1
歴代歯学部長	
歴代歯学部附属病院長	
歯学部元教授	
現構成員	
挨拶	7
歯学部長	
歯科系副病院長	
歯学部創設 25 周年を迎えて（祝辞寄稿）	11
岡山大学歯学部創設 25 周年記念式典	26
進行プログラム	
記念講演	
岡山大学歯学部卒業生の卒後進路調査	
写真集	
編集後記	39

岡山大学歯学部 25 年のあゆみ

歯学部および研究科 25 年のあゆみ（年表）

昭和 52 年 4 月	歯学部創設準備室設置
昭和 54 年 10 月	岡山大学歯学部設置 口腔外科学講座設置
昭和 55 年 4 月	歯学部第 1 期生受入(入学定員 80 人) 口腔解剖学講座, 口腔生理学講座, 歯科矯正学講座及び歯科放射線学講座設置
昭和 56 年 4 月	口腔生化学講座, 口腔病理学講座, 口腔細菌学講座, 歯科保存学講座および歯科補綴学講座設置
昭和 56 年 12 月	歯学部校舎および附属病院棟新営工事竣工
昭和 57 年 4 月	歯学部専門課程の授業開始 口腔解剖学第二講座, 歯科薬理学講座, 歯科理工学講座, 口腔外科学第二講座および予防歯科学講座設置
昭和 58 年 4 月	歯科保存学第二講座および歯科補綴学第二講座設置
昭和 59 年 4 月	小児歯科学講座設置; 18 講座となる
昭和 61 年 3 月	歯学部第 1 期生卒業
昭和 61 年 4 月	大学院歯学研究科(博士課程)設置(入学定員 18 人)
昭和 63 年 4 月	歯学部入学定員 60 人となる
平成 2 年 3 月	研究科第 1 期生修了
平成 12 年 4 月	歯学部入学定員 55 人となる (3年次での学士入学 5 人を別枠として, 卒業時には計 60 人)
平成 13 年 4 月	大学院歯学研究科と医学研究科を統合し, 大学院医歯学総合研究科を設置(教員籍が学部から大学院へと移行) 4 専攻, 9 講座 >生態制御科学専攻: 機能制御学講座, 脳神経制御学講座 >病態制御科学専攻: 病態機構学講座, 腫瘍制御学講座機能 >再生・再建科学専攻: 生体機能再生・再建学講座, 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座 >社会環境生命科学専攻: 法生命倫理学講座, 国際環境科学講座, 長寿社会医学講座 歯学系 5 学科目, 19 分野 >口腔基礎常態学: 口腔形態学, 口腔機能解剖学, 口腔生理学, 口腔生化学・分子歯科学 >口腔基礎病態学: 口腔病理病態学, 口腔微生物学, 歯科薬理学 >口腔病態外科学: 歯顎口腔機能再建外科学, 歯顎口腔病態外科学, 顎口腔放射線学, 歯科麻酔学 >口腔機能再建学: 生体材料学, 歯科保存修復学, 顎口腔機能制御学, 咬合・口腔機能再建学 >予防・発育加齢歯科学: 顎顔面口腔矯正学, 口腔保健学, 行動小児歯科学, 歯周病態学
平成 14 年 4 月	歯学部学士入学第 1 期生受入(入学定員 5 人)
平成 16 年 4 月	岡山大学は法人化され, 国立大学法人岡山大学となった

附属病院 25 年のあゆみ（年表）

昭和 42 年 4 月	医学部附属病院の歯科を歯科口腔外科と改称
昭和 55 年 4 月	歯学部附属病院創設準備室設置 医学部附属病院歯科口腔外科において、矯正および歯科放射線の暫定診療を開始
昭和 56 年 4 月	医学部附属病院歯科口腔外科において、保存および補綴の暫定診療を開始
昭和 57 年 4 月	附属病院棟新営工事竣工 医学部附属病院の歯科口腔外科は歯学部附属病院へ移行（訓令第 8 号） 歯学部附属病院設置 ，診療開始：病床数 20 床 保存科，補綴科，矯正科，第一口腔外科，第二口腔外科，歯科放射線科，予防歯科設置
昭和 58 年 4 月	第二保存科および第二補綴科設置 病床数 20 床増で 40 床となる
昭和 59 年 4 月	小児歯科設置，10 診療科となる
平成 5 年 4 月	歯科麻酔科設置，11 診療科となる
平成 7 年 11 月	中央診療施設として特殊歯科総合治療部を設置（院内措置）
平成 13 年 4 月	特殊歯科総合治療部を設置（省令施設） 地域医療支援室を設置（院内措置）
平成 14 年 2 月	口腔インプラント外来および顎関節症・口腔顔面痛み外来を設置
平成 14 年 12 月	卒後臨床研修センターを設置（院内措置）
平成 15 年 4 月	審美外来を設置
平成 15 年 10 月	歯学部附属病院と医学部附属病院を統合し， 医学部・歯学部附属病院を設置 （医歯を統合後に 10 診療領域，41 診療科へ） 歯科系（4 診療領域，12 診療科） > 総合歯科：総合歯科 > 口腔治療・咬合再建科：むし歯科，歯周科，補綴科（クラウン・ブリッジ），補綴科（咬合・義歯） > 口腔病態外科：口腔外科（再建系），口腔外科（病態系），歯科放射線・口腔診断科，歯科麻酔科 > 総合口腔保健科：矯正歯科，予防歯科，小児歯科
平成 16 年 4 月	岡山大学は法人化され，国立大学法人岡山大学となった

歴代歯学部長

氏名	在任期間	
西嶋 克巳	S 54. 10. 1	～ S 63. 3. 31
加藤 慶二郎	S 63. 4. 1	～ H 2. 3. 31
足立 明	H 2. 4. 1	～ H 4. 3. 31
中後 忠男	H 4. 4. 1	～ H 6. 3. 31
中井 宏之	H 6. 4. 1	～ H 8. 2. 28
松村 智弘	H 8. 2. 29	～ H 8. 3. 31 事務取扱
松村 智弘	H 8. 4. 1	～ H 12. 3. 31
滝川 正春	H 12. 4. 1	～ H 14. 3. 31
永井 教之	H 14. 4. 1	～ H 16. 3. 31
渡邊 達夫	H 16. 4. 1	～

歴代歯学部附属病院長

氏名	在任期間	
中後 忠男	S 57. 4. 1	～ S 63. 3. 31
井上 清	S 63. 4. 1	～ H 2. 3. 31
山下 敦	H 2. 4. 1	～ H 4. 3. 31
松村 智弘	H 4. 4. 1	～ H 6. 3. 31
村山 洋二	H 6. 4. 1	～ H 10. 3. 31
佐藤 隆志	H 10. 4. 1	～ H 12. 3. 31
岸 幹二	H 12. 4. 1	～ H 15. 9. 30

岡山大学歯学部元教授

氏名	担当科目	在職期間		
足立 明	口腔生理学	S 55. 4. 1	～	H 10. 3.31
井上 清	歯科保存学 I	S 56. 4. 1	～	H 12. 3.31
小田嶋 梧郎	口腔解剖学 II	S 57. 4. 1	～	H 3. 3.31
加藤 慶二郎	口腔細菌学	S 56. 4. 1	～	H 4. 3.31
佐藤 隆志	歯科補綴学 II	S 58. 4. 1	～	H 14. 3.31
谷口 茂彦	口腔生化学	S 56. 4. 1	～	H 6. 3.31
永井 廣	口腔解剖学 I	S 55. 4. 1	～	H 10. 3.31
中井 宏之	歯科理工学	S 57. 4. 1	～	H 8. 3.31
中後 忠男	歯科矯正学	S 55. 4. 1	～	H 10. 3.31
西嶋 克巳	口腔外科学 I	S 54.10.1	～	H 9. 3.31
古田 裕昭	歯科薬理学	S 57. 4. 1	～	H 15. 3.31
松村 智弘	口腔外科学 II	S 57. 4. 1	～	H 15. 3.31
村山 洋二	歯科保存学 II	S 58. 4. 1	～	H 14. 3.31
矢谷 博文	歯科補綴学 I	H 12. 4. 1	～	H 15. 3.31
山下 敦	歯科補綴学 I	S 56. 4. 1	～	H 11. 3.31

(50 音順, 敬称略)

大学院医歯学総合研究科(歯学系)・医学部・歯学部附属病院(歯科系)教育職員等配置図

平成 17 年 2 月 27 日現在

大学院医歯学総合研究科 (歯学系)	口腔形態学	口腔生理学	口腔生化学・分子歯科学	口腔病理病態学	口腔微生物学	歯科薬理学	生体材料科学	歯科臨床学						
								顎口腔放射線学	顎口腔歯科学	口腔保健学	歯科臨床学			
教授	山本敬男	松尾龍二	滝川正春	永井教之	福井一博	北山滋雄	鈴木一臣	下野 勉	嶋田昌彦					
助教授	池亀美華	小橋 基	久保田 聡	長塚 仁	若口 進	小野寺憲治	吉田靖弘	渡邊達夫						
講師				カンクウズ・メークト 辻極秀次	井上哲圭 新垣隆資	十川紀夫 十川千春	入江正郎 田仲持郎	岸本悦央						
助手	平田あずみ 河井まりこ	松橋 誠 美藤純弘	服部高子 (休)西田 崇	神農素生										
研修医1年目														
大学院医歯学総合研究科 (歯学系)	歯科臨床学	顎口腔機能制御学	咬合・口腔機能再生学	顎顔面口腔矯正学	顎口腔機能放射線学	歯科口腔病態外科学	顎口腔放射線学	顎口腔歯科学	口腔保健学	行動小児歯科学	歯科臨床学			
教授	吉山昌宏	高柴正悟	皆本省吾	山本照子	菅原利夫	佐々木 朗	岸 幹二	渡邊達夫						
助教授	糸田俊之	窪木拓男	原 哲也	宮脇正一	高木 慎	目黒 浩	河原研二	岸本悦央						
講師		前川賢治												
助手	伊澤俊次 高務明博 仲俣 聡 土居潤一	荒川 光 水口 一 藤沢拓生 細雅久美子 (休)峯柴 史	衣田圭宏 丸尾幸憲 岡本 信 沖 和広 有馬太郎	谷本裕子 黒田晋吾 出口 徹 福永智広 菅原康代	植野高章 福永敏司 山近英樹 川本知明 山田朋弘	岸本晃治 塚本剛一 志茂 剛 吉濱泰斗	此内浩信 本多康聡 河井紀子 久富美紀	友藤孝明 坂本友紀 恒石美登里 (休)江國大輔						
歯学附属附属病院	むし歯科	顎顔科	補綴科(咬合・顎顔)	矯正歯科	口腔外科(再建系)	口腔外科(歯周系)	顎口腔放射線・口腔放射線科	小児歯科	予防歯科	小児歯科	歯科臨床学	総合歯科	総合歯科	総合歯科
教授	西谷佳浩	新井英雄	明良文夫	岩本義博	高畑安光	田代陽子 山路公造	高木 了	立立成弘 高橋 圭 高橋貴士 山本香穂里	目黒道生 津谷壮一郎 山辺ころ 久枝 綾 杉山安平	工藤佳英子	宮脇卓也	江草正彦	石田 慎	白井 肇
講師														
助手														
医 員														
研修医2年目														
研修医3年目														
研修医4年目														
歯学部その他職員	所属	職 名	教(一)	行(二)										
共同利用施設	RI実験施設	教務員	大山和美											
	動物実験施設	動物飼育手		山本友子										
	マルチメディア共同利用室	教務員	小河達之											
	形態系共同利用室	教務員	長岡紀幸											
	機能系共同利用室	教務員	藤代薫樹 井上美穂											

挨拶

渡邊達夫（岡山大学歯学部長）

皆木省吾（岡山大学医学部・歯学部附属病院副院長）

岡山大学歯学部創設 25 周年記念学部長挨拶

岡山大学歯学部長 渡邊 達夫

岡山大学歯学部創設 25 周年記念事業を開催しましたところ、多くの皆様方のご臨席を賜り、光栄に存じております。有難うございました。河野学長、井上副学長、中山医歯学総合研究科長、岡田医学部長、清水医学部・歯学部附属病院長、小林岡山県歯科医師会長始め、歯学部元教授の先生方、また、協賛くださいました歯科業界の代表の方々に厚く御礼申し上げます。実は歯学研究科を成立させるために作り上げた岡山歯学会も 25 周年になりますので、あわせて記念事業をすることにしましたことをご報告いたします。

岡山大学歯学部はご存知のように日本で最も歴史の浅い歯学部であります。この 25 年の間に、いろいろな評判を聞くことが出来ました。まず、岡大の卒業生は腕が立つということでした。日本中の歯科大学が臨床実習から少しずつ手を引き始めた頃、教授自らが学生診療室に出て指導したことの成果が現れたものと思います。

最近では、「岡山大学歯学部の卒業生は問題を起こすことなく、全国で頑張っていますね。どんな教育をしているのですか」と聞かれます。確かに、岡大歯学部の卒業生で問題を起こした人は聞いておりません。「どこのだれだれ先生は、岡大の歯学部の卒業生ですよ。良く頑張っていますね。評判が良いですよ」ということも良く聞きます。何人もの卒業生が時々帰ってきてくれて、「先生、他所の大学の卒業生は滅茶しよるで。すぐ抜いて、すぐ削る。あの歯医者とは一緒に仕事は出来ませんわ」というようなことも言います。このような逸話から、岡大歯学部の卒業生の評判が良いのはある程度、事実として捕らえることが出来ると思います。「どんな教育をしているのですか」と聞かれた時、「教員の後ろ姿を見て、育っていくのでしょうか」と答えるようにしています。確かに我が歯学部では、いち早く推薦入学や受験生の全員面接をしたり、チュートリアル教育の実施、早期見学実習、国際交流のための ODAPUS 等を取り入れてきました。しかし、今となってはどの大学でも行なっていることばかりです。このように教育のソフトウェアによる差は見られないということは、歯学部学生の質が良いのは当然ですが、教員の後ろ姿を見て育ってくれたがゆえに、評判がよくなったと考えざるを得ません。教員組織も代替わりがほぼ終わりに近づいています。ここにご臨席賜った元教授の先生方の教え子が、教授、助教授、または講師・助手として在職し、国民の健康な生活を確保するために、また、岡山大学歯学部のために全力を尽くしています。教え子たちの成長を温かく見守っていただけたことが、今日の 25 周年記念事業につながっています。

岡山大学長の河野先生は、この大学を中・四国地方の雄と位置付け、地域との連携に重点をおこうとしています。これは今後の岡山大学の発展を考えたとき、賛成票を一票、まず最初に投ずるべきものと考えています。この地域に密着した大学構想は、歯学部の存在意義である国民の健康な生活を確保するという目的に勝るとも劣らない大切なものでございます。しかし、国立総合大学の歯学部である岡山大学歯学部に対する世間の位置付けは、また違ったものがあるようにも思えます。昨日実施しました個別学力試験、前期日程の志願者の分布

を調べてみますと、実質競争率は 4.1 倍でしたが、内訳は大阪府出身者が第一位で 24 名、岡山県出身者が 23 名、第三位が兵庫県で 19 名でした。次いで、愛知県の 8 名、京都府、香川県、福井県、奈良県、広島県と続いています。また、受験生の分布は、北は宮城県から南は鹿児島県まで、32 都府県にまたがっています。この傾向は、歯学部創設以来、ずっと続いてきたものであります。すなわち、岡山大学歯学部は全国的な規模でその存在を求められているといっても過言ではございません。アメリカの例を見ますと、地域からの信頼を失った大学は廃校の憂き目にあっています。その例からしますと、地域と密着した大学運営は、必要欠くべからざるものであります。それに加えて、岡山大学の歯学部は国民の健康な生活を確保するために、全国的視点での存在意義を自覚しておかなければなりません。

さて、研究面でございますが、創立以来、歯学部の研究業績は実に素晴らしい限りでございます。受託研究費や委任経理金の額では、とてもじゃありませんが医学部の足元にも及びません。しかし、科学研究費の獲得件数、獲得額は医学部にも負けないくらいの成果を上げています。特に若手の研究者の意気込みには、目を見張るものが有ります。おかげ様で、歯学系の大学院生も続々と入学してきていますし、研究に対する歯学部のこの高い activity は当分の間、衰えることはないでしょう。

歯系の病院についても一言言わせて頂きますが、外来患者数は創設以来うなぎのぼりに増加して来たことは、既にご存知のとおりです。国立大学 11 歯学部中、常に 4 位か 5 位に位置し、落ち着いていました。現在もその地位を確保しています。地域住民との信頼関係も良く、外来患者さんに関して、清水病院長にご心労をかけることも少ないのじゃないかと自負しております。

岡山大学歯学部の教育、研究、診療についての過去を振り返ってみましたが、25 年間で良くぞここまで来たものだ、と感無量でございます。日本で最も新しい歯学部が何とかここまで来ることが出来たのも、本日、ご臨席くださいました先生方や、歯科業界の皆様の「岡大歯学部だったら、まあ出席してやろう」というお気持ちに代表されますように、本当に多くの方々のご好意と友情による賜物でございます。我々の目標を、地域住民の幸福と国民の健康な生活の確保に置く限り、この信頼と友情は永続するものであると信じています。ここにご臨席下さいました皆さんの友情と信頼こそ、将来の歯学部の発展に大きく影響するものです。今後とも、よろしくご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたけれど、この記念事業は岡山大学歯学部同窓会の後援を受けておりますことをご報告いたします。中野浩輔後援会長始め、役員の方にも何回となくお集まりいただきまして、打ち合わせをしまりました。歯学部同窓会の先生方の評判がさらに上がることを祈念いたします。

なお、本記念事業は歯学部の若手の教授を中心としたワーキンググループの面々によって企画、実行されたものでございます。精一杯の努力はしてまいりました。不都合、ご立腹な点多々ございましょうが、ご容赦くださいますようお願い致します。

岡山大学歯学部創設 25 周年を迎えて

岡山大学医学部・歯学部附属病院 歯系診療担当副病院長 皆木 省吾

25 周年を迎えたことを大変に嬉しく感じます。光陰矢の如しと言われますが、まさに過ぎてみれば時の流れは速く感じられます。その一方でこれまでに学部積み重ねられてきた多くの出来事、努力、改善、喜び、哀しみ、．．．，年月の重みを改めてかみしめつつ 25 周年の記念式典の日を過ごしました。記念式典での渡邊学部長のスピーチの場面はおそらくは多くの先生方の心に時の深さを残されたものと思います。創設に携わられた先生方や創設期に学生時代を過ごされた先生方の想いはまたさらに深いものと思われ心が熱くなります。

さて、25 周年を迎えた今は、期せずして大きな変革の時期となっています。次の 50 周年までに私達が向かうべき道を再確認せねばなりません。岡山大学歯学部としてのアイデンティティーをより価値の高いものとし、多くの卒業生の皆さんとともに、日本における歯科医学、歯科医療の質を高く引き上げ続けることが我々全員に求められていることであると考えます。歯科医学という点について、この進歩発展についてはこれまで我々の意識は十分に向いてきたと認識しています。これからもこの道を発展させることに迷いはありません。もう一方の歯科医療という点については、各専門領域によってその意義付けや取り組み姿勢には差があるように思われます。これからは歯学部と附属病院が組織として、また同窓生をはじめとする“岡大の”と呼ばれる先生方総てが歯科医療という観点についてもう一度考えてみることに、これからの 25 年を歩み出すためには必須であると感じられます。記念講演において、人が生きるために眼と耳と口が特に重要であるとお話がありました。大学という生きた組織にとってもこれは同様で、これから次の 25 年を過ごすに際しては、確たる将来展望を search する眼、変化する時代の情報と我々への要望を聞きとめる耳、そして口腔の重要性を広い視野を持って我々自身が再確認することが重要であると考えます。

歯科医学と歯科医療を両輪とした大躍進を岡大の手中に収めるよう、次なる 25 年の飛躍を決意し、また楽しみにしたいと思います。

祝 辞

河野 伊一郎 (岡山大学長)

井上 一 (岡山大学副学長)

中山 睿一 (岡山大学大学院医歯学総合研究科長)

岡田 茂 (岡山大学医学部長)

清水 信義 (岡山大学医学部・歯学部附属病院長)

小林 敏郎 (岡山県歯科医師会 会長)

中野 浩輔 (岡山大学歯学部同窓会 会長)

歯学部・岡山歯学会創設 25 周年記念式典挨拶

岡山大学長 河野 伊一郎

岡山大学歯学部創設 25 周年をお祝いし、心からお慶び申し上げます。

岡山大学歯学部は、昭和 54 年、国立大学では最後の歯学部として設立された比較的新しい学部ですが、関係者の努力により急速に発展し、充実してまいりました。

本学歯学部創設の基本理念は、「高潔な人格を有し、高い技能と知性を備えた歯科医師の育成であり、特に重度心身障害者及び僻地医療にも対応できる感性豊かな歯科医師の養成」であります。その本学歯学部は昭和 59 年、18 講座となり現在に至っています。また、歯学部附属病院は昭和 57 年、7 診療科でスタートしましたが、昭和 59 年に 10 診療科となり、その後、平成 5 年に歯科麻酔科が増設され、歯学部の教育と臨床の体制が整いました。

平成 13 年に大学院歯学研究科は、大学院重点化への動きの中で、岡山大学大学院医歯学総合研究科として新しい組織に改善され、それに伴って歯学部の全教官は大学院所属教官となりました。さらに平成 15 年には、医学部附属病院と歯学部附属病院が統合され、岡山大学医学部・歯学部附属病院となり、規模そして質ともに、我が国有数の附属病院となりました。

その間、歯学部の卒業生は、1,200 人に達し、各方面、各分野で国民の健康の保持増進に活躍しております。各病院、行政機関はもとより、大学の教員として活躍している卒業生も少なくありません。特に第一期生の二人が、岡山大学歯学部の新進気鋭の教授として母校の発展に寄与しているところでもあります。岡山大学歯学部卒業生の評価は非常に高く、については本学におけるその教育方針・内容等についても他大学から大いに注目されているところがあります。

研究面においても、歯学部創設以来、卓越した業績を残しております。発表論文数や科学研究費の獲得額は、全国 32 歯科大学の中で、質量ともに常に上位を占めています。

さて、岡山大学は平成 16 年度より国立大学法人となり、新たなスタートを切りました。いくつかの課題を有していますが、本学としてはこれを好機として「個性輝く魅力ある大学」を目指し、更なる発展を期しているところでもあります。その改革の一環として、平成 17 年度からは、大学院は医歯薬学総合研究科に改組・統合することが決定しておりますが、そのメリットを生かし、歯学の教育研究が一段の発展を遂げられるよう期待いたします。

岡山大学歯学部創設 25 周年記念式典にあたり、これからのご健闘とご発展を祈念し、お祝いのご挨拶といたします。

ご挨拶

国立大学法人岡山大学理事・副学長 井上 一

岡山大学歯学部創設 25 周年並びに第 25 回岡山歯学会記念学術集会おめでとうございます。四世紀半を経て 1,200 名に達する卒業生を送り出し、全国レベルでご活躍と伺いました。また、研究面でも多くの外部資金を獲得しておられ、先端的研究も大変活性度が高く、永年にわたる教官並びに同窓諸氏のご努力の賜と存じます。

大学院における機能再生・再建学専攻では私自身が硬組織を扱っているため、骨・軟骨の病態あるいは生体材料の領域で大変近いおつきあいをさせて頂いており、かなりの数の欧文論文も連名で出させて頂いている次第です。改めて御礼申し上げますとともに、今後ともご協力をお願い申し上げます。

江草安彦先生の特別講演では、総歯科医療費は減少傾向との話でしたが、これには生活環境、歯科医療の向上などいくつかの要因があることなのでしょう。しかしながら、日本における急速な少子高齢化は別の問題も提起しているように思われます。現在厚労省における介護保険制度の見直しでは、新しいサービスとして筋力向上、栄養改善、口腔機能向上が導入される予定です。これらは市町村モデル事業として実施されていくと思いますが、歯科領域も高齢化社会を迎え、口腔ケアの面で活躍されることになるでしょう。国民は快適で楽しい老後を送れる健康寿命の延長を願っているわけで、全人的医療の中では歯科医療のこれからの益々の充実発展が望まれるものと思います。

人生も 25 年を過ぎると、本当の成人としてより高い社会貢献が期待されます。教職員を始め、同窓の諸氏並びに現役の学生諸君の発展・活躍を心よりご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

岡山大学歯学部・岡山歯学会創設 25 周年によせて

岡山大学大学院医歯学総合研究科長 中山 睿一

岡山大学歯学部そして岡山歯学会創設 25 周年記念、まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

歯学部は、岡山大学 11 学部の中では、新しい学部です。その歯学部も既に、4 半世紀を経過したとのこと、ご関係の方々の思いもひとしおであろうと思います。25 年前、歯学部創設には恐らく大変な御苦勞があったことと思いますが、設立に尽力された諸先生のご苦勞には改めて深く感謝申し上げます。

平成 13 年からは、医学部と歯学部を重点化、つまり、大学院化して教員はすべて大学院籍になりました。昔の帝大系の大学は医学部だけで単独で重点化しましたが、いわゆる旧制六大学に相当する大学は、医学部と歯学部が合併して重点化しなければならないということで、設置準備委員会、その作業部会を設け、医歯学総合研究科の設置に向けて検討を重ねました。当時は難波医学部長を中心に、大学院化の責任者は小児科の清野教授、歯学部長は滝川教授、山本教授は作業部会長でした。学務関係の難題は保田教授が担当されました。この過程で、議論を重ねた末に、任期制も導入することになりました。

計画通り、平成 13 年 4 月から、医歯学総合研究科が発足致しました。この 3 月で 4 年間の学年進行も修了致します。恐れていた学生の定員割れも遂に起らず、定員は十分に満たし、また、平成 16 年 4 月の法人化への移行も無事乗り切りました。この 4 年間の間に医学部・歯学部間の相互理解も随分と進んだように感じております。共同の研究プロジェクトも立ち上がっております。この 4 月からは、さらに薬学部が加わり、医歯薬学総合研究科として再出発致しますが、さらに新しい飛躍を期待しております。

歯学部の特徴は、患者さんの評価が非常に高いことであります。親切で丁寧、そして、勿論、治療には高い信頼が寄せられています。これこそ日ごろの皆様の教育、診療の努力の賜物です。これからも益々のご発展を祈っております。

歯学部・岡山歯学会創設 25 周年式典 ご祝辞

岡山大学医学部長 岡田 茂

岡山大学歯学部・岡山歯学会の創設 25 周年を心からお祝い申し上げます。

25 年前といえば、私は当時岡山を離れており、この鹿田地区の変貌に関しては、あまり詳しくは覚えておりません。どんな時代だったかなと振り返ってみますと、それは「第 2 次石油ショック」後であり、「省エネ」が叫ばれていた時代であったことが判ります。おそらく、歯学部創設時代の先生方は大変苦勞されたと思いますが、その後には、バブル経済となるわけですから、この 25 年の間には、今から考えると「親方日の丸」の時代もあったわけです。

やがて、経済の冷え込みが始まりますと、それに呼応したように「大学改革の波」が押し寄せてきました。その走りの頃、私は岡山大学へ帰って参りました。その後、私の経験した波の中で大きかったものが、「教養部の廃止」「医歯学総合研究科の設置」「大学の法人化」であります。法人化の前には、医学部附属病院と歯学部附属病院の統合がありました。

私が医学部長に任命されました 2 年前、「岡山医学同窓会誌」に挨拶文をとということで書かせて頂いた中に、「制度の変更は必ず内容の変化を伴う。私達はそれに備えなければならない」と書きました。というのも、これまで制度の変革があるときは、必ず「当面今まで通りで、内容的には何も変わりませんよ」ということで推し進められてきた経過があります。しかし、これでは何の為の変革なのか判りません。変革には必ず理念があります。それが無ければ、フランス革命のように暴走し、周りからの圧力により始めて「我に返る」ということになりかねません。

私の考えていたとおり、医歯学総合研究科が設置された後は、目に見えて歯学部と医学部の交流が盛んになりました。お互いの内部事情にも通じ合うようになってきました。場合によっては本音をぶつけ合える関係も出来てきました。4 月からは医歯薬学総合研究科になり、私達がいままで医歯学で経験してきたことに、薬学部が加わります。この医療系 3 学部のつながりは、色々な意味で、更に深くなるでしょう。

最近、歯学部の診療に関して、患者さんの評判が非常に良いという声が聞こえてきます。私自身も歯科に通われた患者さんから聞いております。これは、特に外来に携わっておられる先生方、学生さん、メディカルの方々に対する評判です。内部にいる者の一人として非常に嬉しいことです。是非この伝統を維持して頂きたいと思います。

歯学部・岡山歯学会は将来にわたって歯学に関する教育及び研究の頂点に立つ組織だといえます。部局長の適切なリーダーシップの下に、よき歯科医師、優れた歯学研究がますます輩出致しますことを心から祈念致します。私は現在「医療教育統合開発センター」の立ち上げに努力しておりますが、このセンターが将来に向けた医療人の育成に重要な位置を占めるものと確信しております。是非ご支援をお願い致します。

25 周年のお祝い ー 医学部・歯学部附属病院の発展を祈ってー

医学部・歯学部附属病院長 清水信義

思い出せば本学歯学部は昭和 54 年に創設され、昭和 57 年には歯学部附属病開設され、その後着々と多くの業績を上げられ、今日の我が国の歯科医療の発展に大きな貢献をされています。

特に、昭和 57 年に開院した歯学部附属病院は、平成 15 年 10 月医学部附属病院と統合し、岡山大学医学部・歯学部附属病院として、歯科医療を全人的な医療として発展させることになりました。病院統合にあたっては、いろいろ苦労がありました。当時の岸病院長、永井学部長などのご尽力があり、同時に統合した全国 9 大学病院のなかでも最も円滑に統合ができた病院です。統合の目的は、大きくふたつあり、ひとつは病気の人たちのために全人的に医療を提供する環境を作ることと、もうひとつは効率的な医療の提供です。合併当初から、医科領域と歯科領域の協力関係は極めて良好であり、統合後の現在院内では歯科と医科の協同の医療チームが、NST、嚥下摂食リハビリテーション、患者支援センターなどで急速に広がってきております。これは偏に、歯科の先生方が、大学病院の先進的で高度な医療のなかでは、患者の全身を診ながら歯科医療を提供することの必要性を強く認識して頂いているからであろうと思います。

現在附属病院には、全部で 41 の診療科がありますが、そのうち歯科領域には 12 の診療科が来ています。また、歯科特有の中央診療施設としては、特殊歯科総合診療部が設置されています。3 年後の平成 20 年には、病室も新しく出来るⅡ期病棟に入り、名実共にひとつの病院となります。

しかし、最近の医療環境の変遷は急速であり、3 年後にはどの様になってくるかの予想も困難です。そのような中で、外来や病棟、中央部門などの医療環境の整備は喫緊の問題です。医科と歯科の強い一体感が無ければいまの状況を乗り切ることが困難です。幸い、皆木、嶋田副病院長、渡邊歯学部長の現執行部の力強いご支援とご協力があり、極めて良好な協力関係は築かれております。お陰様で、先日の 5 年ぶりの病院機能評価も無事受審を終えることが出来ました。

どうかこれからも、領域を超えてひとつの病院として発展させるなかで、歯科医療の分野が一層の発展をされることをお祈り致します。

祝 辞

岡山県歯科医師会 会長 小林 敏郎

本日、ここに岡山大学歯学部、並びに岡山歯学会創設二十五周年記念式典が盛大に挙行されるにあたり、岡山県歯科医師会を代表してご挨拶申し上げますことはこの上もない光栄と存じます。

岡山大学歯学部は、昭和二十四年五月岡山大学医学部附属病院に一診療科として設置された歯科がその前身であり、以来診療、研究、教育に於て立派な伝統を築かれ、その礎の上に昭和五十四年十月待望の歯学部が創設されたものと存じます。

歯学部創設というこの輝かしい実績は、先駆者の方々の未来を指向したご英断の賜と存じ深く敬意を表するものであります。そして既に二十五年「日月如流」の感一入でございます。

この四半世紀の間、歯科医学の進歩発達、歯科医師の育成、又高度な歯科医療を通じ社会への貢献を始めとする幾多のご業績は、広く歯科界の矚目するところであります。

二十一世紀の歯科医療は、予防、管理、再生医療に重点が移されるものと存じます。分子生物学、発生生物学等を始め総ての分野に於いて無窮に進歩する医学の世界にあって基礎・臨床は勿論のことですが、他学部との連携もより一層密にされ、時代の要求に適応したさまざまな先端医療の追究に多大な成果を挙げられますことを念じております。

最後になりましたが、人類の大きな期待に応え益々のご発展を祈り、創設二十五周年を寿ぎます。

歯学部創設25周年記念によせて

岡山大学歯学部同窓会 会長 中野 浩輔

岡山大学歯学部が創設されて25年になり、2月27日に記念式典が開催され同窓会が後援としてバックアップできることを同窓会会長として誇りに思っています。

岡山大学歯学部の同窓会の現況を報告しますと、会員数は1,200名を超えました。会員が増えるに従い会員の活躍の場も広がり、今では全国の全ての都道府県で会員は活躍しています。また海外で活躍している会員もいます。

支部単位でも岡山県内の大学支部は1期生の宮脇会長の元に結束を強め、岡山県支部は1期生の中村会長の元120名を超える正会員の組織となりました。

兵庫県支部では1期生の長井会長の元、100名近い正会員、

大阪府支部では2期生の寄田会長の元、120名を超える正会員、

奈良県支部でも竹内会長の元、30名近い正会員の組織となっています。

また広島や関東でも正式な支部を発足する段階に入っていると報告を受けています。

本部の会長は最初の会長を務められた丸山先生が10年間、2代目の会長を務められた難波先生が8年間と大変長い期間同窓会を支えてこられました。丸山先生と難波先生は共に1期生となります。そして昨年4月より3代目の会長として始めて2期の私が会長職に就きました。今まで先輩方が築いてきた歴史を汚すことが無いように精一杯頑張るつもりでいます。

2月27日の記念式典に先立ち待ちまして、前日の2月26日に岡山大学歯学部同窓会役員連絡協議会をアークホテルで開催しました。土曜日の夕方から開催したのにも関わらず本部、代議員会、大学支部、岡山県支部、兵庫県支部、大阪府支部、奈良県支部から50名近い先生が集まってくれました。

今回の連絡協議会の目的は各支部の担当理事が集まって横の繋がりを強化すること。当日は深夜まで協議をして懇親を深めて笑い声が響きあう楽しい雰囲気の中、会議は成功裏に終わったことをここに報告します。

こうやって多くの会員が活躍できるのも本当に学部が存在したからに他なりません。私達は岡山大学歯学部で素晴らしい教育を受けました。25年前に岡山大学に歯学部を創設するにあたりご尽力頂いた多くの方々、また創設して今日まで25年間多くの方々の努力と支えによって2月27日という日を迎える事が出来たのだと思います。1,200名の同窓会会員を代表して岡山大学歯学部に関わってこられた全ての方々にお礼を述べたいと思っています。今まで本当にありがとうございました。そしてこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

大学の方も 2004 年 4 月から国立大学法人岡山大学となり、2003 年 10 月からは岡山大学医学部・歯学部附属病院が発足しました。近いうちに大学院医歯学総合研究科も薬学部が入り大学院医歯薬学総合研究科となるように聞いています。

大学の組織も生き残りをかけて目まぐるしく変革を行っている今、今回の 25 周年記念を機会に、今まで以上に岡山大学歯学部と岡山大学歯学部同窓会の連携が密になればと心から願っています。

歯学部創設 25 周年に寄せて

(歯学部元教授祝辞)

足立 明 (口腔生理学)

小田嶋 梧郎 (口腔解剖学 II)

加藤 慶二郎 (口腔細菌学)

谷口 茂彦 (口腔生化学)

中井 宏之 (歯科理工学)

中後 忠男 (歯科矯正学)

西嶋 克巳 (口腔外科学 I)

古田 裕昭 (歯科薬理学)

松村 智弘 (口腔外科学 II)

村山 洋二 (歯科保存学 II)

矢谷 博文 (歯科補綴学 I)

山下 敦 (歯科補綴学 I)

(50 音順, 敬称略)

足立 明 先生

岡山大学歯学部創設 25 周年、おめでとうございます。思い返せば、私が新設の岡山大学歯学部へ赴任したのは、昭和 55 年の春、1 回生諸君の入学と同時でありました。現在の校舎はまだ建設中で、地上部分はまだ姿を現していませんでした。我々の講座は木造の旧内科病棟に、『岡山大学歯学部暫定施設』の看板を掲げて産声を上げました。今は跡形もなく取り払われて、新病棟に生まれ変わっていますが、時々めくるアルバムの 1 ページには、この暫定施設の前で撮った一葉の写真が残っておりまして、懐かしい思い出となっております。平成 10 年 3 月に停年退官するまでの 18 年間、誰にでもあるように楽しいこと苦しいこと、人生いろいろとありました。なかでも、退官を目前に、教育改革の波がおしよせてきまして、行き先不透明のまま大学を去ることになりましたのは、後ろ髪を引かれる思いでありました。しかし、改革は着実に前進し、私の不安はまさに杞憂であったようです。今後の岡山大学歯学部のますますのご発展を祈念し、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

小田嶋 梧郎 先生

昭和 57 年 10 月 22 日、岡山大学開学記念日に『あなたは 30 年間という長期にわたって、歯学医育のための人体解剖標本を数多く作製され、岡山大学歯学部へ赴任を機会に新設設計の解剖標本室に素晴らしい人体標本のかずかずを収納展示されました。なかでもベルリン自由大学解剖学教室で研鑽技術習得したドイツ人体幹筋群乾燥標本は白眉であります。ここに岡山大学歯学部へ寄せられた絶大なる情熱と協力に対して心から感謝の意を表すると同時に解剖学標本の永く記録に存留することを記念して感謝状を贈ります』とした人体解剖標本のすべてが、現在、岡山大学歯学部へ存在しないことは誠に残念であります。

加藤 慶二郎 先生

「祝創設 25 周年記念」

岡山大学歯学部並びに岡山歯学会が創設されて早や四半世紀を経過したことを心からお慶び申し上げます。年月の過ぎ行く速さに驚かされますが、私が退職してからの年数の方が在職年数 11 年を超えてしまいました。私が講義したのは 10 期生までだったのですが、この 20 余年間で 1,100 余名の卒業生を輩出した由で誠に同慶にたえません。「一期一会」という言葉は在職中はさほど気にもしていませんでしたが、退職した今日此の頃では先人はよく言い当てたものと思っています。今回のような記念の集いには懐かしい人達にお会いできるのではと楽しみにしています。

歯学部初期の思い出については、岡山大学創立 50 周年を記念して平成 11 年に出版された岡山大学史（平成元年～平成 11 年）に書かせてもらった「思いでの記」に尽きます。

ここ数年の間に大学院大学への格上げや国立大学の法人化の波に飲まれたり、名称も長くなってしまった様で、改組・改変の渦中で対処された学部・附属病院の教授・助教授を初めとする構成員のご苦勞は大変なものだったと思われます。何故 30 周年記念ではなく 25 周年記念なのかと思っていましたが、岡山歯学会プログラムの冒頭に書かれた渡邊歯学部長の開会の経緯と心意気を読んで歯学部・附属病院の新たな出発と発展を期しての会と納得し

ました。いかなる時代になっても実力のある学部・附属病院であるように精進し、発展されることを切望して止みません。

谷口 茂彦 先生

岡山大学歯学部・岡山歯学会創設 25 周年の目出度き節目を迎え、今日のご清栄を寿ぎつつ心より祝賀申し上げます。

四半世紀を溯る草創期、学部の姿も夢の内建物も未完成で仮住いの頃の、教官職事務職関係者各位の御奮闘の去りし日々を今ここに改めて想い起し、誠に感無量です。今や国立大学も社会の進化に積極的に対応すべく、体質・機構の変革が必然の趨勢で進展中の独立行政法人化体制下での、壮年期歯学部の実像と正にその命運など、去りし老骨の想いを遙かに超える昨今です。明るい展望の下での学部核心と岡山歯学会の堅実なる御発展を、そして卒業生諸氏の実社会での益々の御活躍を、在任中の多大の御厚誼を感謝致しつつ、切に祈念申し上げます。祝辞とさせて戴きます。

2005 年 2 月 27 日

中井 宏之 先生

「15/25」

岡山大学歯学部（この字を使うのも久しぶりですが）が目出度く 25 周年をむかえられることになりました。感慨深いものがあります。

私が在籍したのは 25 年のうちの 15 年間ですが、実際には講座を開設するという仕事がありましたので、関与した期間はもう少し長くなりました。同時に赴任しました鈴木一臣助教授（現教授）と種々打合わせ、スタートに備えました。その時の講座スペースや大型備品のレイアウト等は勿論ですが、これよりも重要な運営方針の基本概念が現在も生きているようなのは、嬉しいことです。

いくつか、印象に残っていることがあります。一つは、建物のフロアの配置です。歯学部発足の準備段階には歯科理工学講座は基礎系講座のグループに入っており、場所も現在とは違っていました。それを全体打合せの際に個別に話し合いがもたれ、保存修復学、補綴学講座と同じフロアに並ぶことが出来たのは嬉しいことでした。私は歯学部の出身者であり歯科医師でもありますので歯科理工学を臨床系科目と理解して今日まで教育、研究活動をやってきました。結果、これらの講座の先生方には実に多くのことを教わることが出来、深く感謝しております。今一つ印象に残っているのは、大学院教務委員会の一員として学位の審査についての種々のルールづくりと、これを実際に動かして学位を出すところまでこぎつけたことです。特に、大学院の一回生の入学時の面接と学位請求につながる研究発表会については、大きな感激、安心感、深い満足をおぼえました。これらのことにつき、リーダーシップを発揮された加藤慶二郎先生には敬意を持ちつづけています。とまれ、私にとって岡山大学歯学部はそのフレッシュさとフレキシビリティで、サミュエル・ウルマンのいう青春そのものでした。

現在も、将来にわたっても、この若々しい気風が失われないことを、深く願うものです。

中後 忠男 先生

「25 周年記念に寄せて ―学部創設の頃の回顧と今後の希望―」

「一炊の夢」と言いますが、この 25 年は将にその通りです。この間に岡山大学歯学部が見事な成長を為し遂げられたことは、ご同慶の至りであります。

振り返れば、本歯学部は当時の小坂淳夫学長をはじめ大学諸先輩のご尽力と初代学部長西嶋克巳教授および地元関係各位の献身的熱意が漸く文部省に通じ、昭和 54 年 10 月 1 日に創設されました。私はこれより以前から歯学部創設のお手伝いに岡山へ参上しました。公的には昭和 53 年 8 月 16 日付で岡山大学歯学部創設準備委員会の一般教育、専門教育及び附属病院の三つの委員会委員を仰せつかり、西嶋教授の下で種々の重要事項にも参画させて頂きました。ついで歯学部教授に就任直後から歯学部附属病院創設準備室長として 2 年、初代病院長として 6 年を務めました。この連続 8 年余は重要事が山積し、旧歯科口腔外科教室関係の先生や事務部の方々そして新任の教授諸氏のご助力を得ながら、早朝から夜遅くまで責務を果たすに精一杯の日々でした。この初期にはカリキュラムの作成や新学舎・附属病院の設計図の検討なども仰せつかり夜を徹して行いました。忙しさの余り弱音を吐く暇もない有様でしたが、歯学部を完成する夢に向かって一同が懸命に仕事をしたのも、今は懐かしく、まるで昨日の事の様に思えます。当時の唯一の夢は、今日の様な堂々たる岡山大学歯学部の雄姿をみることでした。その夢が叶って 25 周年記念式典が挙行され、私まで参加をお許し頂きまして感激であります。今後の望みは、本歯学部が更なる発展を遂げて特に COE を早期に獲得され素晴らしい業績を上げ、本学部の世界的レベルでの名声が定着されること、併せて私の嘗ての在任した歯科矯正学教室が更に飛躍されることを心から願うものです。諸学兄には「為せばなる」の精神で誠意と勇気をもって大目標を果たすべく日々ご健闘あらん事を強く期待申し上げます。

西嶋 克巳 先生

歯学部・岡山歯学会創設 25 周年記念誌発刊を祝って昭和 24 年 4 月、岡山大学医学部に歯科学講座開講、昭和 54 年 10 月、岡山大学の第 8 番目歯学部開学。一周年に岡山歯学会設立、昭和 57 年 4 月 14 日開学、開院、落成式のよき日に岡山歯学会雑誌第 1 巻第 1 号（創刊号）が発行された。創設当時の理想に向かって、全教職員が一致団結して今日の 25 周年を迎えられたことに満腔の敬意を表する。

古田 裕昭 先生

岡山大学歯学部創設 25 周年おめでとうございます。

その間に送り出された卒業生は 1,100 人を越えたとか。卒業生諸氏にお会いすると、皆様がそれぞれの立場で活躍されているご様子、20 年間を岡大歯学部で過ごした私にとって感無量です。この 25 年間には国立大学に大きな変化がありました。センター試験実施による入試科目数削減に始まった文部省の入試改革要求、更には設置基準大綱化に伴う教養教育改革、そして独立行政法人化など改革の名の下に多くの変化がありましたが、削減したはずの科目数が元に戻ったように、変化はこれからも大きく揺れ動くことでしょう。その中で、社会的要因による歯学部への圧力は増加するばかりとか。この大波の中を岡山大学歯学部を次の 25 年に向かって無事航海させる責務を担われる諸先生方のご苦労は大変なものと思っております。

岡山大学歯学部の一層のご発展を祈念いたしております。

松村 智弘 先生

「創設 25 周年を迎えて」

この度、岡山大学歯学部には、創設 25 周年を迎えることになり、まことにおめでとうございます。

昭和 57 年 4 月から平成 15 年 3 月までの 21 年間にわたって岡山大学歯学部にお世話になった一人として、心からお慶び申し上げます。振り返ってみますと、歯学部附属病院開設当初の活気に満ち溢れた頃、大学院が創設され研究が軌道にのってきた頃、歯科医師過剰問題で国立大学歯学部の護船団方式が廃止され改革路線へと踏み出した頃、大学院歯学研究科の医学研究科との合併の頃、法人化への模索が始まった頃などそれぞれの時期で関係の教職員が、歯学部の生き残りをかけて頑張ってきた歴史が 25 年を迎えることになり、感慨無量のものがあります。歯学部を離れて、はや 2 年になろうとしています。法人化された大学の実情を漏れ聞くとところによるとなかなか大変のようで、これから先もかなり厳しいものと想像されます。歯学部の今後の方向性については、現職の教職員の方々がいろいろな観点から議論されておられることで、外野席からとやかく言う問題ではないのですが、最近の医療事故のもろもろを報道で見ていると、大学である以上、最先端の研究・臨床は言うまでもなく、知識・技術のみではなく人間性・人格も優れた人材の教育にも力点を置いた学部として発展して頂きたいと願っています。

村山 洋二 先生

「岡山大学歯学部創立 25 周年を祝して」

岡山大学歯学部創立 25 周年おめでとうございます。

学部は 25 周年も経てば、同窓生の活気が満ち溢れんばかりになります。これからの学部発展にはいよいよ胸が膨らみます。私は 1983 年に岡山大学に赴任して 2002 年停年退職しましたので、その成長ぶりは具に目にして来たと思っています。今や素晴らしい学部として世間からも認められるようになりました。さらに、現職の皆さんは当節の難しい問題も積極的にうまく対応しておられるので、学部の将来にはますます期待が持てます。退職当初は、自分の意志とは関わりなく足が勝手に大学に向いていることによく苦笑したものでした。停年退職後、精神的にうつ状態になるというのはよく耳にする話ですが、私に関しては大学を訪問するということでその現象から免れたのかも知れません。現在はサンスター社のお手伝いをしていますが、大学にいる時分に比べると随分時間的ゆとりがあります。したがって、同窓会や町内会、囲碁の会、マージャンの会を含むいろいろな寄り合い、諸団体が企画する各種催し、これまで失礼することの多かったお付き合いなどに積極的に参加することに幸せを覚えます。とりわけ岡山大学歯学部創設 25 周年記念式典は楽しみです。

矢谷 博文 先生（現 大阪大学大学院歯学研究科）

岡山大学歯学部ならびに岡山歯学会創設 25 周年まことにおめでとうございます。もう創設以来 25 年も過ぎたのかと、いまさらながら月日の経過の早さに驚いています。

私は昭和 55 年に大阪大学歯学部を卒業後直ちに広島大学歯学部大学院に進学し、大学院を終えて助手を 1 年務めた後、昭和 60 年 4 月に歯学部第一補綴科に講師として赴任いたしました。以来、18 年間の長きにわたり、平成 15 年 3 月まで岡山大学歯学部にお世話になりました。私の大学人としての資質を養っていただいたのは紛れもなく岡山大学歯学部であり、感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時に、歯学部の創設期から現在まで、教育、研究、臨床いずれをとっても他大学歯学部には引けを取らない歯学部を他の多くの同僚とともに創り上げてこられたことは、私にとって大いに誇りとするところでもあります。

18 年間の岡山時代の思い出は枚挙に暇がありませんが、今振り返ると、恩師山下敦名誉教授の薫陶を受け、常に日本にとどまらず世界に出て行っても恥ずかしくないような教育、臨床、研究をやりなさいといわれ続けて、それを意気を感じて窪木拓男現教授をはじめとする優れた仲間とともに切磋琢磨しながらただただ突っ走ってきたなあという思いがします。あっという間の 18 年間でした。

今歯学界は嵐の中にいます。国立大学歯学部も病院統合、独立行政法人化、研修医制度必修化などさまざまなうねりの中で、前進、改革を怠れば大学歯学部の存在自体が脅かされかねない状況となっています。岡山大学歯学部としてその例外でいられるはずはありません。今後ともぜひ一致団結して時代の荒波を乗り越えていただき、全国の多くの歯学部の中でも一味違う、光った歯学部として発展していかれることを願ってやみません。岡山大学歯学部ならびに岡山歯学会に栄光あれ！

山下 敦 先生

「創設は易く、守成は難し」

歯学部・岡山歯学会には創設 25 周年を迎えられ、誠に欣快にたえず心からお慶びを申し上げます。

昭和 56 年 4 月、机ひとつの他何も無い歯学部仮校舎で 8 名のスタッフで歯科補綴学第一講座を開講した。草創期は、ファントムによる在位診療システムを取り入れた模型実習室や、ホームポジションの理論に基づく学生技工室の設計の他、岡山歯学会誌の投稿規定作りや表紙デザインの決定等、歯学部・岡山歯学会発展の基礎作りに胸ときめかせ夜を徹したことを懐かしく思い出す。

草創期には、人が皆勢いづき、お互いの相乗効果で予想以上の大きな力を発揮することが多い。一方、25 歳は成人してやっとなら周囲がみえてきた頃である。

創設の困難は過去のことだが、守成は現実のことである。親方日の丸の大学から独立行政法人へと大転換した今日、守成のひとつとして「研究者・教育者・臨床医」としての姿勢、視座、3 のバランスなどをじっくり見直すよい機会ではなかろうか。現実の歯科界は、1 億円献金事件に象徴されるように、治療効果を評価することなく、出来高払いの医療制度に便乗した患者不在の医療が存在する。これを機に、今一度「何の為に」、「誰の為に」歯学を学び働くのかを考え、それに答えられる『医の倫理を基盤にした志の高い医療従事者』を育成して頂きたい。

岡山大学歯学部の益々の発展を祈念申しあげ、お祝の言葉とする。

歯学部創設 25 周年記念式典

岡山大学歯学部創設 25 周年記念式典

日 時：平成 17 年 2 月 27 日（日） 9：30 ～ 13：30

場 所：岡山大学五十周年記念館（岡山市津島中 1-1-1）

- 8: 30～ 岡山歯学会理事・評議員会
8: 45～ 受付開始
ポスター受付および展示開始

岡山大学歯学部創設 25 周年記念式典

- 9: 30～ 記念式典および岡山歯学会開始
開会の挨拶
- 9: 55～ 記念祝辞
1. 河野 伊一郎 先生（岡山大学長）
 2. 中山 睿一 先生（大学院医歯学総合研究科長）
 3. 岡田 茂 先生（医学部長）
 4. 清水 信義 先生（医学部・歯学部附属病院長）
 5. 小林 敏郎 先生（岡山県歯科医師会長）
- 10: 30～ 祝電紹介
- 10: 35～ 岡山大学歯学部の歴史（卒後進路，教員の業績等の紹介）
- 11: 00～ 歯学部元教授への感謝状贈呈
- 11: 10～ 記念講演
江草 安彦 先生
（社会福祉法人旭川荘理事長 川崎医療福祉大学名誉教授）
- 12: 10～ 記念式典終了，昼食・懇親会場への移動
- 12: 30～ 昼食・懇親会（ピーチユニオン）
開会の挨拶
乾杯
岡山歯学会各賞表彰

高齢社会における医療福祉の課題

社会福祉法人旭川荘 理事長
川崎医療福祉大学 名誉学長
江草 安彦

はじめに

人口問題は、人間生活と密着している、社会、経済、教育、社会保障のあらゆる分野に大きく影響を与える。

わが国の少子高齢社会への突入、人口減少の開始は、わが国の医療に厳しい変容を迫ってきている。

岡山大学歯学部創設 25 周年、岡山歯学会創設 25 周年にあたり、関係者のみなさんと、その祝賀の式典につらなことは大きな喜びであり、おかやま地域のみでなく、全国的に学術的に臨床的に多大な貢献をされた歯学部及び同窓生のみなさまに心からの敬意を表しつつ、医療、福祉ことに歯科領域の抱える課題について私見を述べることにする。

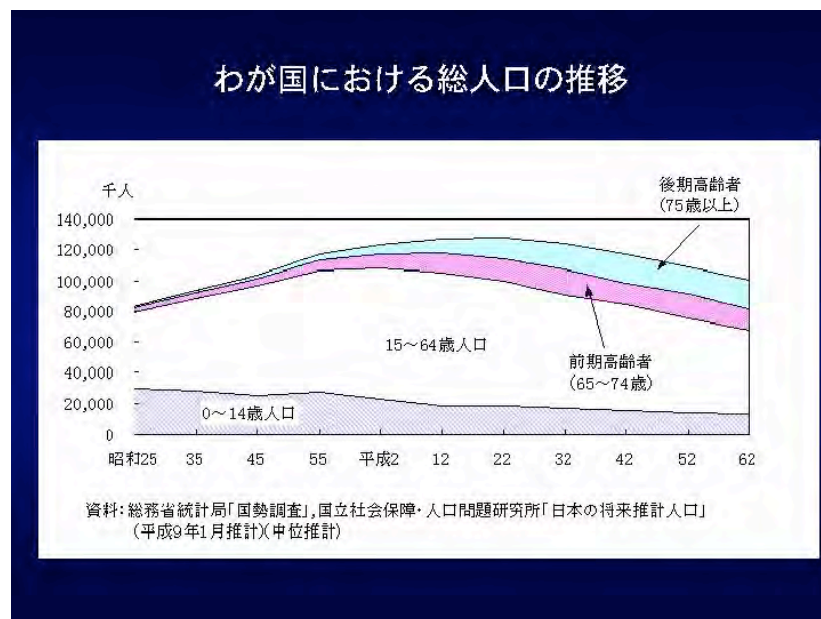


表-1

少子高齢社会の到来 —地球的進行—

わが国における総人口の推移は（表-1）にみるように総人口の減少、年少人口 0-14 歳（生産人口 15-64 歳）の減少と、高齢者人口ことに後期高齢者人口（75 歳以上）の増加をみせている。

この動向は（表-2）にみられるように先進地域、開発途上地域を問わないものである。アジアの各国、地域における合計特殊出生率は（表-3）のように、日本が辿ったのと同様、もしくはさらに早いスピードで出生率低下が進行している。一方、各国、各地域では生産性、医療、教育水準、保健の向上による、高齢化の傾向を（表-2）でみることが出来る。

少子高齢社会の到来は地球的進行といえる。

国際経済社会局発表の世界人口予測 2004 年版で、日本が 2005 年も世界一の長寿国であり、高齢化が一段と進む見通しであることがわかった。より深刻なのは、韓国、中国、シンガポールである。これらはいずれも経済発展が著しい国であることが特徴である。例外的なのは若々しさを保ち人口増が続く米国である。

世界人口の動向等

	1950年 (昭和25年)	2000年 (平成12年)	2050年 (平成62年)
総人口	2,518,629 千人	6,070,581 千人	8,918,724 千人
65歳以上人口	130,865 千人	419,197 千人	1,418,742 千人
先進地域	64,034 千人	170,744 千人	315,507 千人
開発途上地域	66,831 千人	248,453 千人	1,103,234 千人
65歳以上人口比率	5.2 %	6.9 %	15.9 %
先進地域	7.9 %	14.3 %	25.9 %
開発途上地域	3.9 %	5.1 %	14.3 %
平均寿命 (男性)	45.2 年	63.3 年	72.0 年
同 (女性)	47.9 年	67.6 年	76.7 年
合計特殊出生率	5.0	2.7	2.0

資料：UN, World Population Prospects: The 2002 Revision
 (注1) 平均寿命及び合計特殊出生率は、1950-1955年、1995-2000年、2045-2050年
 (注2) 先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。
 開発途上地域とは、先進地域以外の地域をいう。

表-2

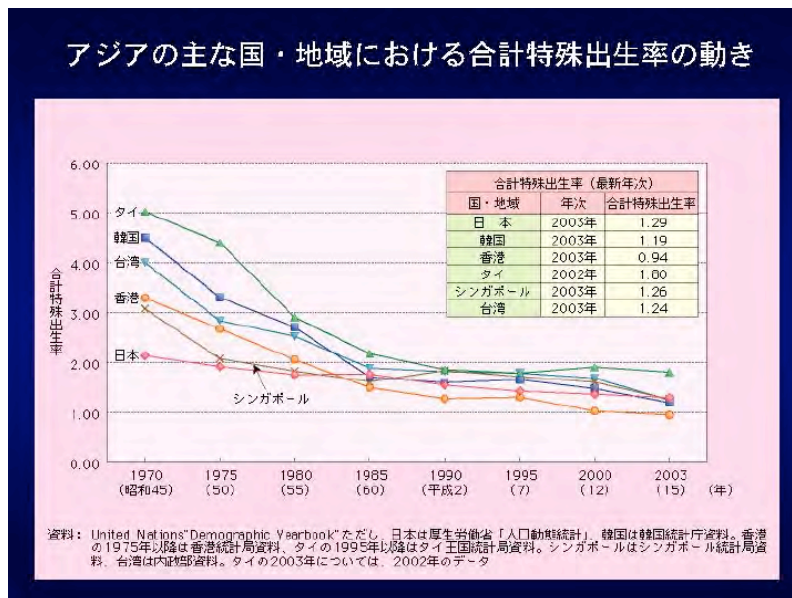


表-3

人口動態と国民生活

人口動態は交通、住居、教育、文化活動などの日常生活、年金生活、保健活動、医療、福祉など社会保障と深く関係している。

少子高齢社会になると、これらの需要は多様で複雑となり、より量的、質的に多くのサービスを必要としてくる。多くの場合、新しい高齢者むき需要が発生することが、予想されることになる。これに対して、サービス供給のための人的資源は、量的、質的にも、また社会保障の財政の立場からも、困難となってきた。

かつてはいわゆる医療が狭義の医療に加えて介護的な、社会的なサービスまで分担してきた。病院の外来は高齢者サロン化しているといわれたこともあるし、社会的入院といわれる現象も多かった。こうしたこともあり、需要の拡大がつづくために医療費だけではこたえられなかった。財政の立場と、高齢者の求める介護サービスを実現するために社会全体で支えようという新しい社会保障制度として、介護保険が 2000 年に発足した。高齢者医療と介護は深く重なり、国民生活に安心をあたえるものとなった。

社会保障は医療・福祉・年金を包括したものであり、医療と福祉は人が人に対する直接的なサービスであり、統合的、融合的な関係となって、はじめて安心、安全な生活が実現できる。社会保障給付費の内訳（平成 14 年度）は（表-4）に示すように、その半分は年金であり、医療 31.4%、福祉その他 15.5%、介護対策 5.6%である。

社会保障給付費内訳 (平成14年度)		
(億円)		
医療	262,744	(31.4%)
年金	443,781	(53.1%)
福祉その他	129,140	(15.5%)
介護対策(再掲)	46,995	(5.6%)
合計	835,666	(100.0%)

表-4

年齢別の一人当り医療費	
年齢	医療費(千円) (2001年度)
0~14歳	113.5
15~44歳	98.0
45~64歳	249.1
65歳以上	667.2
70歳以上	766.8
75歳以上	861.1

表-5

年齢別の1人当たり医療費（表-5）は、15～44歳が1番低く、65歳超で急速に上昇している。

年齢別の受療率（全医療、歯科医療を含む）（表-6）にも、同様な傾向がみられる。高齢者医療は、今後の医療、歯科医療の最重要な課題である。

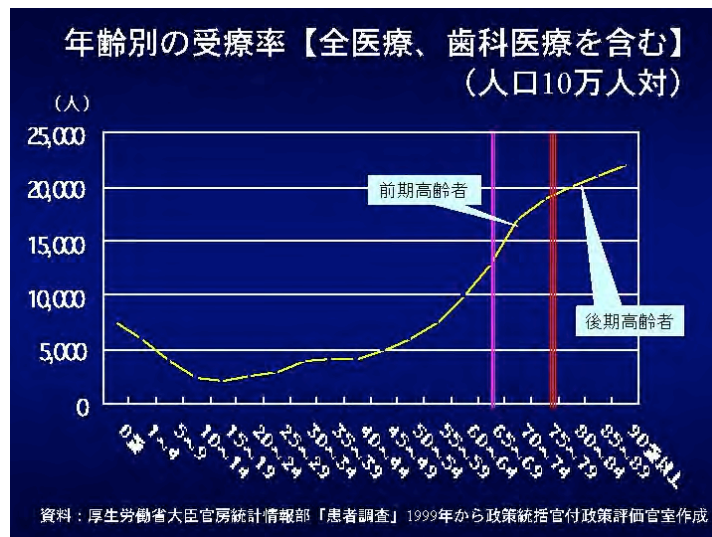


表-6

高齢者と歯科医療

歯科医療費の国民医療費に占める割合の経年変化（表-7）をみると、昭和37年には12%超であったが、その後、若干上下はするものの、しだいに低下傾向を示し、平成に入ると、歯科医療費が国民医療費に占める割合は8～9%となっている。

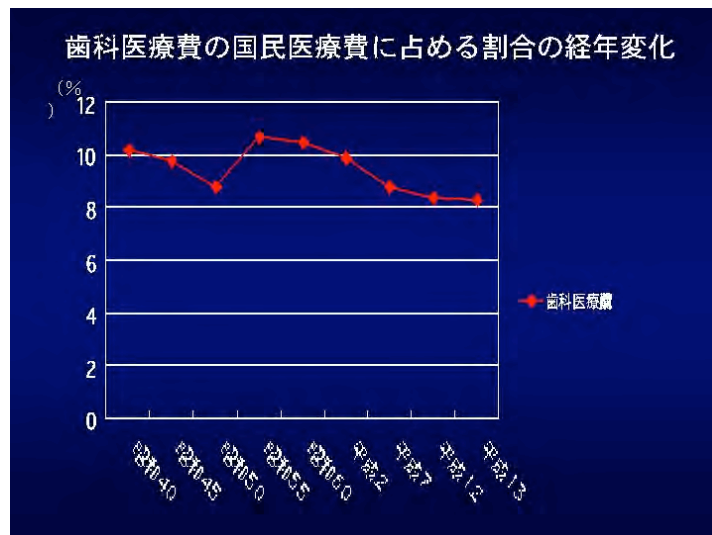


表-7

国民医療費・歯科医療費の経年変化（表-8）をみると、国民医療費の急増に比べ、歯科診療医療費はほぼ横ばいであった。

歯科診療所の1歯科診療所当たりの患者数は34.3人→17.6人、歯科医師1人当たりの患者数は28.7人→14.0人となっている。（表-9）

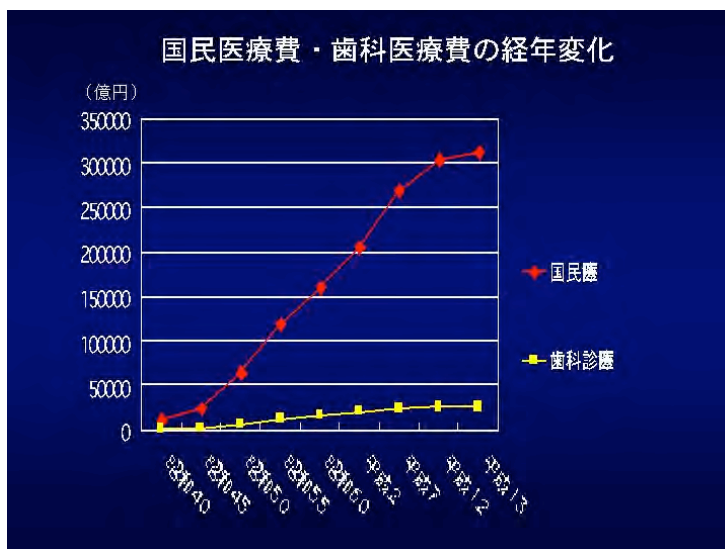


表-8

歯科診療所の1診療所，歯科医師1人当たりの患者数

	1歯科診療所当たり	歯科医師1人当たり
昭50	34.3	28.7
51	33.0	28.2
52	36.3	28.3
53	33.5	27.4
54	33.9	27.0
55	31.7	25.4
56	32.3	26.4
57	32.3	25.6
58	31.3	25.2
59	25.1	20.2
62	25.1	20.0
平2	23.8	18.1
5	22.5	17.9
8	21.9	15.6
11	17.6	14.2
14	17.6	14.0

資料：患者調査（厚生労働省大臣官房統計情報部）
 （調査月は、58年までは各年7月、59年からは10月である。）

表-9

高齢者は増加している。年齢別受療率は高齢者で増加している。国民医療費に占める歯科医療費は減少している。こうした事実を反映して、1 歯科診療所，1 人当たり歯科医の患者数は、この 30 年間に半減している。こうした傾向は、歯科医の努力、口腔保健の前進といえるだろう。

かつて小児歯科・障害者歯科が注目されたが、人口構造の変化にともない、今日では当然、高齢者歯科ないし、高齢者の口腔科学が注目されるべきであろう。

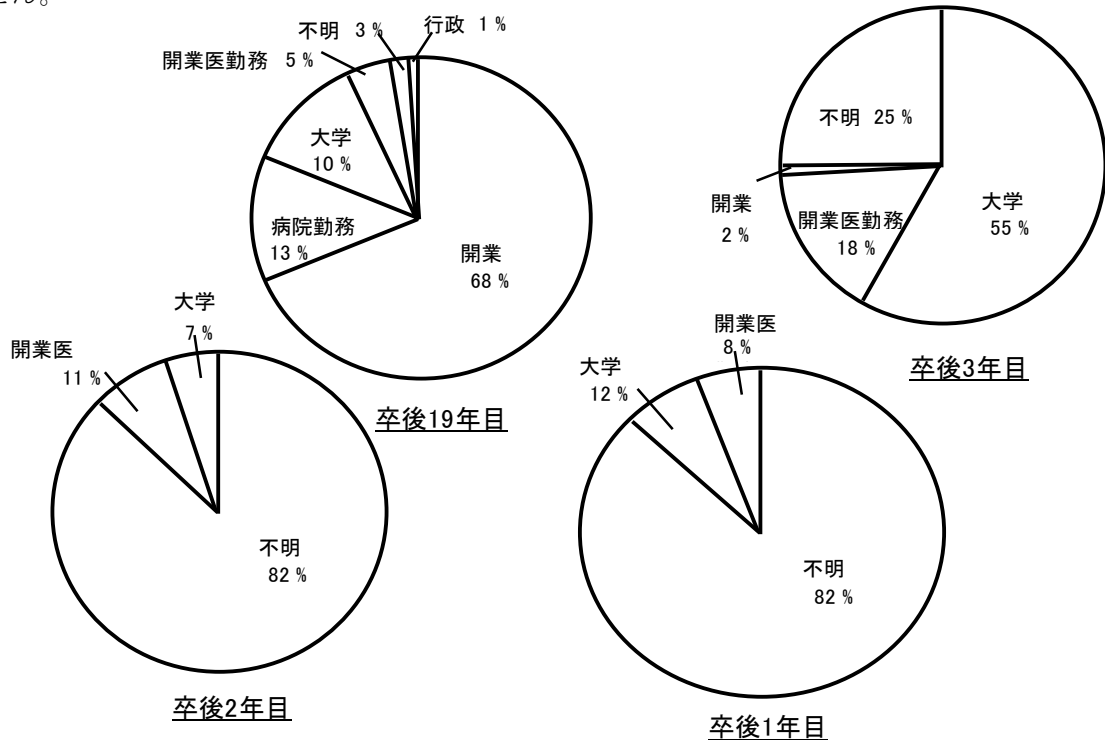
介護保険の見直しがすすめられているが、その中に歯科関連のものがある。積極的に歯科は、人間サービスの融合的なかたちである医療福祉の立場および、統合的ホリスティック医療に目をむけねばならない。高齢者歯科医療の重要性が注目されているからである。自己満足の歯科医療でなく、相手満足の医療、対話の医療をすすめるべきであろう。

岡山大学歯学部卒業生の卒後進路調査

高柴 正悟 (1 期生, 岡山大学大学院医歯学総合研究科歯周病態学分野教授,
歯学部創設 25 周年記念事業実行委員長)

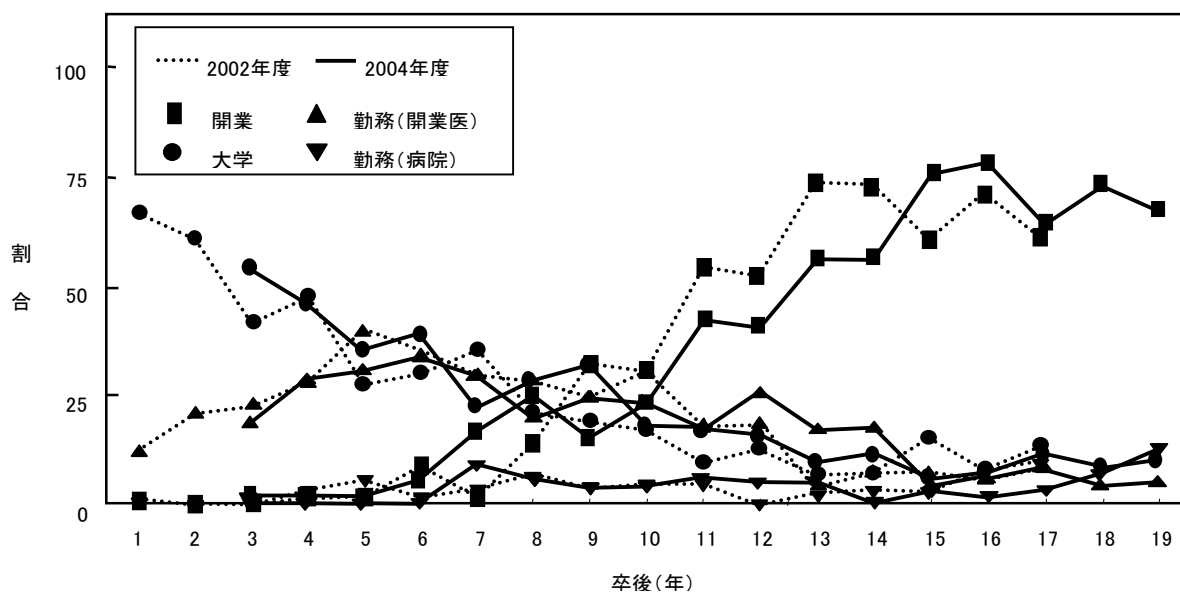
岡山大学歯学部の卒業生の総数は、2004 年度の同窓会会員名簿をデータベースとして調べると、1,219 名 (2003 年 3 月現在) に達しています。そして卒業生は、様々な方面で活躍し、我が岡山大学歯学部の名声を高めています。今回、岡山大学歯学部創設 25 周年記念式典を催すにあたり、我々卒業生の卒後進路状況を報告することになりました。ここにまとめられた結果は、卒後間もない同窓生にとって各自の将来像を推し量る参考資料になると思いますし、私のように、卒後十数年を経た同窓生にとっては、気になる後輩の進路状況を把握する絶好の資料になると思います。なお、以下に示します統計資料は、2002 年と 2004 年に発刊された同窓会会員名簿に記載された内容を基に調べています。

この進路調査の過程で、一つの問題が浮かびました。その問題は、図 1 にありますように、卒後 1~2 年目の同窓生の進路不明率が 8 割超という状況です。皆様、お分かりだと思いますが、この学年層は「不明者」が多数ではなく、「同窓意識希薄者」が多数の層だと考えます。もちろん、この学年層の大多数の先生方は、大学に研修医あるいは大学院生として所属しています。こうした卒後 1~2 年目の先生方の同窓意識をいかに高めていくかは、今後の同窓会の課題であると思います。また、卒後 3 年目になると「不明」の割合が 3 割以下になることも興味深いことです。この時期あたりから「同窓意識」が芽生えてくるのかもしれない。



【図 1】 各期別岡山大学歯学部卒業生の卒後進路

1～17期卒業生の卒後進路状況は、図2に示したとおりです。社会的な状況・要求を鑑みて予測はしていましたが、卒後間もない時期は大学に所属する先生が多数を占め、卒後の年数を経るにつれて開業される先生の割合が増加することが顕著に分かります。また、大学所属と開業の各々のラインが交差する年数は卒後7～10年目であるので、この年階層あたりが「人生の岐路」になっているのではないのでしょうか。この結果は、事の善悪は別にして、おそらく他大学、とりわけ私立大学の状況と比較して差があり、岡山大学の“特徴”と言えることかもしれません。いわゆる開業医勤務者は開業予備群の意味合いから、卒後4～6年目でその割合はピークを示しています。病院歯科勤務者は全体に低い割合で推移していますが、その中でも1期生では第2位の進路になっています(図1の卒後19年目)。この進路は、永久就職として魅力ある職場の一つなのかもしれません。



【図2】岡山大学歯学部卒業生(1～17期生)の卒後進路

今回、この調査から考えさせられることは、卒業生の進路が、開業、大学勤務、開業医勤務、病院歯科勤務の4つのカテゴリーで大多数を占めることの意義です。確かに行政職に就かれている先生もいますが、これは非常に僅かな数です。このことは歯学部自体の特徴なのでしょうが、我々の明るい将来を目指して歯科界の構造に改革のメスを入れる必要があるのかもしれません。

同窓生の皆様、今回の調査に対するご意見やご感想、そして歯科界の進歩に向けての新たなアイデアをお持ちの方は、母校あるいは同窓会に連絡してください。お互いの知恵を集めて、明るい将来を築いていきましょう。

記念式典



記念講演（江草安彦先生）



式典会場
（岡山大学五十周年記念会館：
平成15年4月竣工）



受付の風景





渡邊 歯学部長の挨拶



河野 岡山大学長の祝辞



小田嶋 名誉教授への
感謝状贈呈



会場内の様子



中山 医歯学総合研究科長の祝辞



岡田 医学部長の祝辞



清水 附属病院長の祝辞



小林 岡山県歯科医師会長の祝辞



吉山 教授による司会

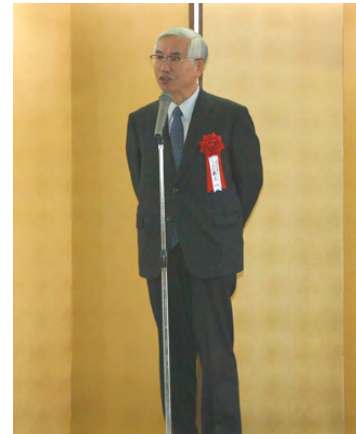


来賓の方々，現教授と同窓会員

懇親会（ピーチユニオンにて）



皆木 附属副病院長による開宴の挨拶



井上 岡山大学副学長の祝辞



岡山歯学会賞の授与
（左から出口先生，上岡先生，前田先生）
今回初めて歯学会賞が設けられ，選考の結果，この3名の他，志茂先生が受賞されました



中野 歯学部同窓会長による乾杯



懇親会場の様子
久しぶりの再会に話がはずんでいました



松尾 教授による閉会の挨拶



編集後記

岡山大学歯学部は、昭和 54 年に設置されて 25 年を迎えました。これを記念して、岡山大学歯学部と岡山歯学会の 25 周年を祝う式典と記念誌編集が企画されました。

式典には、岡山大学長，副学長，医歯学総合研究科長，医学部長，岡山県歯科医師会長および歯科医師会の先生方，歯学部同窓会長および同窓会の先生方，歯学部の元教授の先生方をはじめ，学外の方，現職員，学生さんといった約 300 名の参加を得て，盛会に終えることができました。

記念誌は，記念式典に引き続いて行われた第 25 回岡山歯学会総会の抄録集とあわせて作成する予定で準備が始まりました。しかし，実行委員会で議論を重ねているうちに，記念式典や歯学会の後に，抄録集とは別に作成することとなりました。

記念誌には，歯学部が歩んできた道に加え，江草安彦先生からの未来の歯学部のあるべき姿についてのご提言も含めました。「賢者は歴史に学ぶ」（ビスマルク）といます。この記念誌を手にとっていただき，岡山大学歯学部の軌跡をご理解いただくだけでなく，歯学部の進むべく未来についてもご指導・ご鞭撻をいただきましたら幸いです。

最後になりましたが，本誌発行にあたり多くの方々にご協力をいただきました。ありがとうございました。

国立大学法人岡山大学歯学部創設 25 周年記念事業実行委員
記念誌担当 山本龍生
実行委員長 高柴 正悟

実行委員 (50 音順)

新井 英雄	石田 僚	糸田 俊之	小河 達之	完山 学
窪木 拓男	此内 浩信	鈴木 康司	十川 紀夫	辻極 秀次
長塚 仁	仲保 聡	成石 浩司	原 哲也	平田 あずみ
船橋 誠	堀 雅彦	山本 龍生		



Ver. 1.1

協賛・記念誌広告掲載各社ご芳名

株式会社 アスパックコーポレーション
医歯薬出版株式会社
長田電機工業株式会社
小林製薬株式会社
サンスター株式会社
山陽事務機株式会社
株式会社 松風
昭和薬品化工株式会社
高塚薬品株式会社
タカラベルモント株式会社
株式会社 デンタルダイヤモンド社
デンツプライ三金株式会社
株式会社 東美屋歯科商店 岡山店
株式会社 トクヤマデンタル
株式会社 ニッシン
株式会社 日本歯科商社
日本歯科薬品株式会社
株式会社 ノーベルバイオケアジャパン
白水貿易株式会社
株式会社 ヒョーロンパブリッシャーズ
株式会社 マルミ歯科商店 岡山支店
株式会社 モリタ
ライオン歯科材株式会社
株式会社 ヨシダ
株式会社 ワイディエム
和田精密歯研株式会社

以上 50 音順